

地域通貨「コール」を媒介として、商店街と地域住民が一体となり、まちを活性化

築町商店街振興組合

機関名	築町商店街振興組合		
所在地	福岡県大牟田市築町2-9		
電話番号	0944-57-1290		
地域概要	(1)管内人口 134千人	(2)管内商店街数 25商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 34商店	
	(3)空店舗率 8%	(4)大型店空き店舗数 0	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）
 ・地域通貨事業
 ・活動拠点運営事業
 総事業費 2,582千円

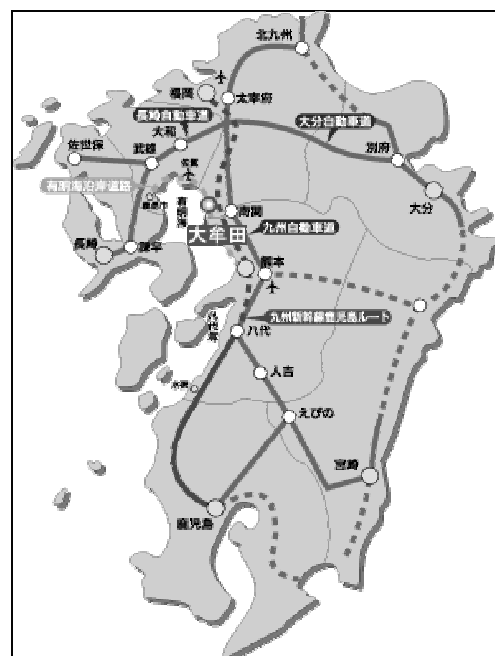
【事業実施内容】

1. 背景

大牟田市は人口約13万人強であり、東は三池山、西は有明海を望む九州の中心に位置している。九州自動車道南関インターが隣接し、有明海沿岸の三池港が存するなど、陸と海の交通ネットワークに恵まれている。

同市は石炭産業を中心とした鉱工業都市として発展してきたが、平成9年にはまちの発展の礎であった三池炭鉱が百有余年に及ぶ歴史に幕を閉じた。中心地区商店街は、人々の生活や娯楽に欠かせない文化や伝統を育む交流の場であったが、近年の人口減少、高齢化、商業機能の低下により、空洞化が顕著になりつつある。

このような状況の中、平成13年に「街かど福祉 人の駅 よらんかん」を築町商店街に開設した。これにより、今まで商店街とは関係の薄かった高齢者や障がい者の来街が多くなり、交流も生まれている。平成15年度は、経済産業省、福岡県、大牟田市、大牟田商工会議所の支援と特定非営利法人「福祉でまちがよみがえる会」等の連携のもと、地域通貨の活動拠点である「こーるかん」を整備し、子育て支援や学習の場提供など地域通貨「コール」



大牟田市の位置（大牟田市HPより）

を活用した事業を立ち上げた。平成 16 年度は今までの事業を継続しつつ、アンケート調査の実施により市民のニーズに応える工夫を重ね、事業のさらなる充実拡大を図った。

2. 事業内容

(1) 事業目的

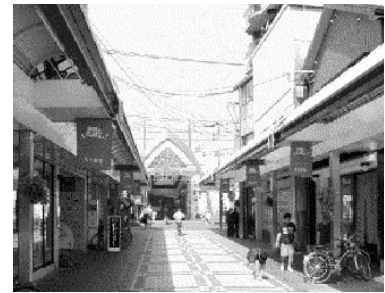
地域通貨「コール」の活動拠点である「こーるかん」を中心とした様々な事業を実施することにより、商業機能だけでなく福祉や教育機能を充実し、市民交流や地域コミュニティを育む厚みのあるまちづくりを推進していく。さらに商店街と市民との関わりを深めていくことで、愛される商店街として繁栄し続けることを目的とした。



「こーるかん」外観

(2) 事業の概要

コール事業「コール」は大牟田市を中心に利用可能な地域通貨であり、目安として「1コール=約100円、約10分のサービス」と交換できる。コール会員は「サービス掲示板」の中から希望のサービスを選び、コール通帳やコール紙幣を使いサービスを受ける。実験的試みとして、築町商店街内のいくつかのお店で、「コール」により買物ができる。



築町商店街の様子

平成 16 年度には、地域通貨コール事務局で約 1,020 コールを発行し、1,186 コールを回収した。

(3) 地域通貨「コール」を活用した事業

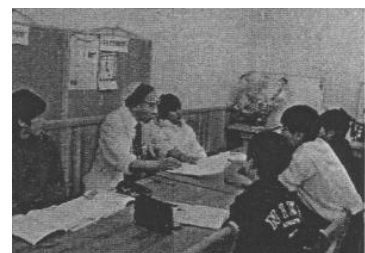
会員は、商店街の美化運動や花苗の植栽等により「コール」を獲得する一方、「コール」の支払いにより学習の場提供事業等の様々な事業に参加した。

①子育て支援事業（子どもの時間・子育て相談）

土曜日休校の子どもたちのために、子どもが安心して遊べる町なかスペースとして「こーるかん」を開放し、有資格者のボランティアが対応した。子どもは 1 コールで参加でき、参加者は延べ 249 名。母親の育児相談にも応じ、会合や商店街行事がある際には、託児事業も行った。

②学習の場提供事業（夜の寺小屋）

小学校・中学校の現役教師や退職者等ボランティアの協力のもと、毎週水曜日、国語を中心に学習の場を提供した。その後受験シーズンを前にニーズが高まり、木曜日も追加開講し教科も国・数・英と増やした。この事業には 1 回 2 コールで参加でき、16 年度の開催数は延べ 61 回で、参加者は延べ 158 名。



寺小屋の様子

③パソコン教室

毎週月曜日に実施していたが、ニーズが高まるにつれ開催日が増え、現在は月曜日の昼夜・金曜日の昼・隔週日曜日に実施した。受講生は主に中高齢者・商店主等。16年度の開催数は延べ87回で、受講生は延べ531名。



パソコン教室の様子

④築町商人塾

築町商人塾として、ステンシル体験教室を実施した。「コール」体験として国道沿いの花壇に飾る看板を作成し、参加者15名は「コール」を受取った。

⑤「こーるかん」のスペースの利用

会員がサークル活動等で会合を行う際に、「コール」を利用して「こーるかん」を借りた。各サークルのメンバーが、「コール」獲得のために商店街の美化活動や花苗の植栽に参加しており、そこで新たな人的交流が生まれ、地域内のグループ交流を促進した。

⑥安心CALL事業

NPO法人「よかよかネットワーク」が実施している生きがい活動支援通所事業の一環として、「よらんかん」（独居高齢者を対象としたデイサービス事業の提供）の利用者約16名に対して安心CALL事業を実施した。「よかよかネットワーク」から「コール」で委託を受け、留守番スタッフが「こーるかん」から週に1回安否確認の電話をした。16年度は年間192回の安心CALLを行った。



地域通貨「コール」および地域通貨通帳

(4) 商店街イベントの実施

①季節のガーデニング講習会

専門家の指導のもと、国道沿いの花壇を利用してガーデニング講習会を実施し、全7回で約300人が参加した。

②いきいきふれ愛祭

中心商店街全体で福祉関係団体と連携して開催する「いきいきふれ愛祭」において、訪れた高齢者や障がい者などの市民が商店街の植栽や美化の手伝いをするにより「コール」を提供した。市民が獲得した「コール」は当日用意されたランチやぜんざいと交換が可能で、92人がコール体験をした。

③夏祭りイベント

大牟田の夏祭りにあわせて築町商店街内で「コール」により参加できるイベントを開催した。輪投げなどのゲームコーナーやビアガーデンを設置し、約200人が参加した。

④クリスマスイベント及びイルミネーションの取付け

12月から1月にかけて商店街を彩るイルミネーションの取付け及び撤去作業を市民に呼びかけ、作業の参加者に5コールを提供し、約50人が参加した。

12月23日にはクリスマスイベントとして音楽ミニコンサートを実施した。合唱を披露した小学生へのお礼として「コール」を発行し、ゲームへの参加や豚汁・飲み物の提供を「コール」との交換で行った。クリスマスイベントの準備や美化活動に約200人が参加し、約200コールを発行、回収した。

⑤街なかボランティア

商店街の美化活動や花苗の植栽等のボランティア活動を月に1回程度実施し、参加者は2コールを取得した。延べ300人が参加した。

⑥チャリティー音楽コンサートの実施

若者に「コール」をPRする目的を兼ね、大牟田レオクラブとの共催でチャリティー音楽ライブを実施した。商店街では「コール」で購入できる豚汁を提供し、子どもたちによるコーヒーの提供も行われた。



チャリティー音楽コンサートの様子

⑦十日市でのPRブースの設置

中心商店街で毎月10日に行われる十日市では、築町商店街内に「コール」を使えるブースを設置しコール体験を促すとともに、来街者にPRした。

(5) 市民アンケート調査の実施

地域通貨を活用して商店街の活性化を図るにあたり、市民にどのようなニーズがあり、そのニーズにどのように応えていくかを検討するとともに、地域通貨「コール」のさらなる周知徹底を目的として、アンケートによるニーズ調査を実施した。

【 効 果 】

1. 来街者の行動

地域通貨「コール」の循環を介した子育て支援事業や学習の場の提供、イベントの実施等により、これまで商店街に足を運んでいた顧客層だけではなく、今まで商店街で見かけなかった若者層やファミリー層を取り込み、学生から高齢者まで幅広い来街者を招くことができた。

2. 商店街の認知度

本事業を通じてイベントをはじめとする様々な取り組みがマスコミ等で取り上げられ、一般市民に元気がある商店街として認知されている。

3. 商店街の組織

地域通貨を介した事業展開により市民が積極的に事業に参加し、それによりこれまで商店街活動に消極的だった組合員が事業に参加するようになった。全般的に組合員の意識が高まっており、他の事業についても取り組む姿勢を示している。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 人的体制

コミュニティとして様々なメニューを実施してきたが、人材が不足しており一部の人間に負荷が掛かっている。企画運営を中心となって担うマネジメント人材や、事業実施のサポーターが必要である。

2. 事業の合意形成

コミュニティ事業の必要性をまだ理解できない組合員がいるため、全組合員に事業の必要性を浸透する必要がある。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

- ・事業開始前に、コミュニティ事業の必要性と商店街としての主体的な考え方を組合員に浸透しなければ、誰のための事業であるのかが不明確になっていく。

【 関 連 U R L 】

地域通貨コール <http://call-oomuta.hp.infoseek.co.jp/>